

# 令和 6 年度 校内研修計画

平戸市立志々伎小学校

## 1 研究主題

主体的に学びに向かう児童の育成  
～「わかった」「できた」につながる書く活動の充実を目指して～

## 2 主題設定の理由

令和 3・4 年度、平戸市教育委員会研究指定として『子どもが主体的・対話的で深い学びができる授業の創造』～ICT を活用した授業改善を通して～を研究主題と設定し取り組んだ 2 年間の成果を継承し、更により良い授業の創造ができるよう反省点を改善すべく令和 5 年度の研究主題を『子どもが主体的・対話的で深い学びができる授業の創造』～ICT を活用した授業改善を通して～として研究に取り組んできた。そこで本校は、様々な授業の中で教師が意図的に chromebook の活用を取り入れる授業を行った。児童は、多くの授業で活用したことから chromebook の操作にも十分に慣れ、主体的に表現することができるようになっていく。

そこで新たに課題としてあがったのが、書く活動の充実である。地域とのつながりなどから手紙を書く機会が多くある。しかし、中身を読んでみると同じことを繰り返し書いているなど、自分の思いを書く力が十分育っているとは言えない。授業の中でも個人学習で自分の考えを書く時間や振り返りの時間を設けているが、自分が書いている考えや意見が相手に思うように伝わらず、深まらないことや自分の考えをもてない児童がいる。また、平戸市の学力調査においても書くことの領域については、全学年目標値を下回る結果となった。このようなことから、主題を「主体的に学びに向かう児童の育成」とし、サブテーマを『「わかった」「できた」につながる書く活動の充実を目指して』とした。

## 3 研究仮説

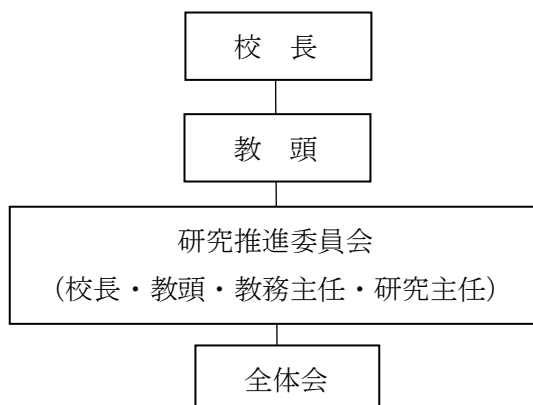
児童が自分の言葉でまとめや振り返り等を書くことで、学習に対して主体的に取り組み、「わかった」「できた」につながる学びができるであろう。

## 4 研究の方法

- 研究推進委員会（校長、教頭、教務主任、研究主任）で全体の企画・運営・調整を行い、全体会で共通理解を図り、研究を深める。
- 研究授業の視点を明らかにして、全学級で授業を行う。
- 校内研修の時間に、学力アップで使用する教材の選定を行い、活用させる。（条件作文や自分の考えを書く問題のプリントなど）

## 5 研究組織

### (1) 組織



### (2) 運営

#### ○研究推進委員会

研究推進委員会は、校長、教頭、教務主任、研究主任で構成し、研究の企画や全体会への提案などの検討を行う。

#### ○全体会

研究推進委員会で計画された案を検討し、実践化のための共通理解をはかる。また、授業研究を通して研究内容の深化を図る。

### (3) 研修日

○毎月第1・2・4木曜日の15:15～16:15（行事等により変更あり）

○研究授業については、原則として校内研修のある木曜日に設定（時間は担任が指定する）し、午後の校内研修の時間で研究協議を行う。

○研究推進委員会は、必要に応じて実施する。

## 6 年間計画

月	日	形態	内容
通年		全体	授業における書く学習についての情報交換 互いの取組や授業におけるICT活用についての情報交換
4	3	研究推進委員会	研究主題等について
	11	全体会	校内研修全体計画・研究の方向性について
5	23	全体会	提案授業（第2学年）指導案検討、指導案形式提案
	30	全体会	提案授業（第2学年）・研究協議
6	13	個人	資料収集（南部地区野外宿泊学習）
7	19	全体	今後の日程確認
8	9	全体会	学力向上プラン作成
	30	全体会	研究授業①の指導案検討（第3・4学年）、学力向上プラン作成〆切

9	1 2	全体会	資料収集
	2 6	個人	個人研修（修学旅行）
1 0	1 7	全体会	研究授業①（第3・4学年）・研究協議
	2 4	全体会	研究授業②の指導案検討（第5・6学年）
	3 0	全体会	資料収集
1 1	7	全体会	資料収集
	2 1	全体会	研究授業②（第5・6学年）・研究協議
1 2	5	全体会 個人	研究授業の考察、学力向上プランのふり返し、研究紀要のプロット提案
1	1 6	個人	研究紀要原稿作成
	2 3	全体会	研究紀要原稿提出、市学力調査の分析
2	2 0	全体会	研究紀要製本
3	6	全体会	来年度の研究に向けて